

第 13 回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■ 日 時：令和 7 年 8 月 7 日（木）9:50～10:55

■ 場 所：周南市役所 委員会室 2

■ 出席者：下表のとおり

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	
周南公立大学 経済経営学部	講師	赤木 真由	
筑波大学 システム情報系	准教授	浦田 淳司	
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	関係団体 を代表する者
周南市スポーツ協会	主査	砂田 優一郎	
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織 を代表する者
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー
周南緑地 P F I 事業者 (洋林建設株式会社)		山川 英一郎	

■ 配付資料

1. 第 13 回周南市スマートシティ推進協議会配席図

2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿

3. 第 13 回周南市スマートシティ推進協議会資料

資料 1 今年度の市の取組について

資料 2 周南スマートシティデザインラボについて

参考資料

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員 10 名中 7 名の出席をいただいておりますので、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 6 条の規定により、本会議が成立していることを報告します。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部長の川口より御挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部 川口)

- ・ 本日は、大変お忙しいところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ また、今回から新たに赤木先生、浦田先生を委員としてお迎えし、今年度初回の協議会を開催できることを嬉しく思っております。
- ・ 今回の協議会では、今年度の市の取組に関することと、「周南スマートシティデザインラボ」に関することを議題としております。このデザインラボは、これまでのモデル地区などでの取組の中で蓄積されたノウハウや成果を活かし、継続的にスマートシティを推進するための新たな仕組みとして始動しました。
- ・ こうした取組が市民に効果を実感していただき、まちの強みとなるように皆さまの忌憚のない御意見を賜りますようお願いいたします。

3. 就任委員の紹介

(事務局)

- ・ 今回から新たに参加いただく 2 名の委員を御紹介します。
- ・ 後ほど議題の中で説明する、今年度の周南スマートシティデザインラボにおいて、管理責任者及びアドバイザーの役割を務めていただき、それぞれの専門的知見をもとに御助言をいただいております。
- ・ 是非、順番に一言ずつ御挨拶いただきたいと思います。

(委員)

(順番に挨拶)

4. 議題

(会長)

- ・ それでは議事に入りたいと思います。まず、「今年度の市の取組について」、事務局から説明してください。

(事務局)

(今年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ ただいまの説明内容について、質問等のある方は次の議題と合わせて質問を受け付けます。
- ・ 次の「周南スマートシティデザインラボ」について、事務局から説明してください。

(事務局)

(周南スマートシティデザインラボについて説明)

(会長)

- ・ まずは、委員から追加のコメントがあればお願いします。

(委員)

- ・ 各チームでどんなアイデアが出てどんなプロトタイプを行っていく予定か説明します。
- ・ 旧市長公舎のチームについては、そもそも「旧市長公舎」という名前が親しみにくいため、利用者の心理的ハードルを下げ、みんながもっと使いたいと思えるような場所にする工夫をするために、本日早速、旧市長公舎現地において一旦チーム内で愛称を考えるワークをする予定と聞いています。
- ・ ウォークابلで憩える徳山駅周辺は、現在、学生だけで検討を進めており、まだチームの6人全員が徳山駅周辺に詳しい状況ではないため、一旦まち歩きしてみようという話になっています。加えて、アイデアとしては、駅周辺で使える独自通貨の仕組みや総合型アプリを作ることで、みんなが歩きたくなる徳山駅周辺を作りたいと考えているようです。
- ・ 最後、公園の利活用促進については、現状は子育て世代にフォーカスをしております。子育て世代が今日どここの公園に行こうか考えたときに、気軽に使える親子出かけ公園マッチングアプリみたいなものが作れないかということを検討しています。このチームについても近々集まると聞いております。
- ・ 次の9月16日までは、特に全体で集まる機会を設けていませんが、各チームに学生がいることもありますので私もフォローしながら、状況を見ていこうと思っております。

(会長)

- ・ 全体像がより詳細に分かりました。ありがとうございました。

- ・ それでは順番に質問や意見を伺っていかれたらと思いますので、まずは副会長からよろしくお願いします。

(副会長)

- ・ 議題（１）の中で、もう既に運用が始まっているものについて、期間はあまり経っていませんが、現在の利用率はどのくらいでしょうか。

(事務局)

- ・ ５番の預貯金等電子照会について説明します。これは、行政・金融機関双方の負担軽減及び事務処理の効率化のため、預貯金等照会の電子化サービスを利用するものですが、令和７年４月からサービス利用を開始し、日々の滞納整理業務に活用しています。
- ・ 実績は、現在までに確認できたものとして、４月が 2,174 件、５月が 2,920 件、６月が 4,173 件でした。

(会長)

- ・ スマートシティということですので、数で数えられるものについてはこのスマートシティ推進協議会の中で共有していくべきではないかというような意図もあった副会長からの質問かなと思いましたので、是非、今後考えていければと思います。

(委員)

- ・ この協議会に参加して４年経ちますが、周陽地区と遠石地区をモデル地区として、地区 LINE の仕組みづくりをやってきました。
- ・ 今年の３月末で、地区 LINE の実証が終了し、その後、５月から８月までは無料の範囲で実装をしています。
- ・ 周陽地区 LINE のお友達登録方法は、二次元コードを名刺サイズに印刷し、それを読みとって登録してもらうようにしています。しかし、現在実装中の無料 LINE は今月で終了予定としているので、また改めて LINE をつくり直す必要があります。
- ・ 今年度は、（公財）ふるさと振興財団から助成金の一部出ましたので、それをもとに有償の地区 LINE づくりをしていこうということで、今日も会議を予定しています。運営に携わるスタッフは現在４名います。使用料が５万 5000 円かかりますが、この助成金を元に、改めて、地区 LINE を作っていこうと考えています。３月末までの実証では、登録者数が 100 名以上ありましたが、そのうちの一部の人から、継続してやってもらいたいという意見が出ましたので、現在はとりあえず無料 LINE を使って運用していますが、改めて有料で、再度、再構築をしていこうという計画でおります。

- ・そして、地域のイベント情報などを発信する予定ですが、新たに編集委員の中に、周陽市民センターで勤務する職員に加わってもらいましたので、今後は、市民センターからの講座の紹介なども含めて発信していく予定です。
- ・より多くの人に、関心を持っていただこうというような計画でおります。

(会長)

- ・今までの経緯も含めて申しますと、モデル地区でずっと LINE の実証を続けてきて、いろんな情報交換をリアルとネットでどういうふうにやっていくのかということを検証しました。また、持続可能な形でかつ、いろんな方々が入れる仕組みということで親しみやすい LINE を使ってみようということになり、地元で編集される方を募り、運用する仕組みまでできている点が非常に素晴らしい成果かなと思います。無料のところでは仕組みが変わると、勝手が変わるので、このところは、是非、市からも最大限のサポートをいただきたいです。こうしたやり方は、モデル地区での例ということで、他地域にも、さらに展開可能なものと思いますので引き続き、委員の方からも、いろんな状況をお伝えいただきながら、市全域へ展開する際の問題点や、あるいは、地区のサポートについても、持続可能な形で御検討いただくことが重要ではないかなと思います。

(委員)

- ・付け加えて、周陽地区及び遠石地区以外の他地区への展開については、コミュニティの事務局を統括する（公財）ふるさと振興財団のスタッフにも御協力いただき、より多くの地区でも LINE を導入していただきたいと考えています。

(会長)

- ・コミュニティ同士のつながりの場があると思いますので、そうしたところでも是非積極的に情報提供いただき、いい形で横展開も御検討いただけたらと思います。

(委員)

- ・議題（１）中で、昨年度までスポーツの分野で、学校施設の空き状況の把握や予約のデジタル化及びシステム化の項目があったように思います。また、昨年度は何校かで実証的に行い、なおかつ、定期利用団体しか、このシステムに触れないという状況でしたが、全市的な展開に向けて今年度の進展があれば教えていただきたいです。
- ・もう１点が、デザインラボに関することです。これまでのアプローチで小さくて細かい課題が置き去りになっているとありましたが、このプラットフォームがある程度確立されたときには、その小さい課題をここに持ち込んだとしても、解

決策がある程度見出せるようになる理解でよろしいでしょうか。今回の3つの課題は行政から持ち込まれたものですが、どんな市民だったとしても、課題で困っていれば、ここに相談をするとある程度望ましい解決策が得られるということでしょうか。

(事務局)

- ・ スポーツ開放に関する質問にお答えします。
- ・ 今回の資料には令和7年度の新たな取組と拡充する取組のみを取り上げました。
- ・ 現在は令和8年度からの予約開始に向けて準備を進めていると聞いています。現在行っていることは、学校にこの予約システムの活用の意向を確認し、活用したいと回答があった学校については、今年度中にデモ運用を行う予定です。

(委員)

- ・ 今年度は行政課題を持ち込みましたが、この手の長期的な課題解決についてはどういう課題設定をするかが重要となります。今年度は、多様な人が入ることによってより良い解決策が導かれるようなテーマをかなりの数の中から3つに絞りました。
- ・ また、参加者についても、今回はオープンに募集をするのではなく、テーマごとに解決に繋がるアイデアを持っていそうな方や、当事者である大学生や高専生で構成していますので、現時点では、相談に来ればすぐに解決するという形にはなっていませんが、今年度はライトな関りしろを作り、デザインラボがどういう場所でどんなことができる場所なのかを興味を持っていただくことを目標にしています。
- ・ 今後、デザインラボのテーマに取り上げてほしい課題をお持ちの方や、デザインラボに参加したいという方が来られた時に、市民が持ち込む課題にも取り組んでいきたいと思います。今年度は作り込んだ形でやっていきます。

(委員)

- ・ 議題(2)デザインラボについてです。感想になりますが、課題解決をしていくには、このプラットフォームのように共同実践が大切になってこようかと思っています。課題によって形は変わってくると思いますが、この先、福祉分野で何か参画できることがあれば、是非、社会福祉協議会もお仲間に加えていただけたらと思っています。
- ・ 各チームのワークショップの中で出た現状アイデアも教えていただきましたが、私たちにはない発想で出てきたいろんなアイデアが、せっかくなので少しでも実現に繋がるようにしていけたらいいと思いました。

- ・ 先ほど委員がおっしゃった周陽地区の LINE の件ですが、私も御縁があり登録をしています。やはり地区の情報が発信されていて、地区で運営されていることが伝わってきていいものだと思います。財政面でも、人的面でも、支援を継続していただけたらありがたいと思います。

(会長)

- ・ ありがとうございます。福祉の問題こそ小さな問題を拾い上げていかなければいけない問題であり、福祉ならではのノウハウがたくさんあると思います。民生委員の方など福祉関連の方が自宅を訪問する際に、声を上げられない人に向き合ってきたという信頼関係がありますので、そこがデザインラボと組み合わせることで、周南流の新しいデザインラボの形として意味のあるものになっていくようになっていくと思いますので、是非検討していただきたいと思います。
- ・ 周陽地区の LINE に登録されているということですが、そんなにいいものなのでしょうか。

(委員)

- ・ とてもいいです。

(会長)

- ・ 当初から地域の回覧板のようなものがほしいということで、この協議会で議論してきて、地域の情報を出している方が頑張って下さっていることが伝わってきてほのぼののコメントだと思いました。非常に感慨深いものがありましたので、周南市さんも嬉しいのではないかと思います。

(委員)

- ・ 福祉分野はデザイン思考と相性がいいテーマです。というのも、ユーザーの気持ちになってアイデアを出すのがデザイン思考の考え方なので、例えば、障害をお持ちの方などの気持ちになったときに、今のこの道具が使いやすいのか、使いにくいのかといったことを考えて、新しい商品を考えるといったアプローチがあります。是非、今後一緒に検討していけたらと思いますし、中間発表や最終発表も見ていただいて、こういうふうに取り組んでるプラットフォームなんだなというところを見ていただきたいと思います。

(委員)

- ・ デザインラボで、専門家として伴走支援させていただきます。
- ・ 7 ページのタイトルに周南スマートシティデザインラボの実装と書いてありプレッシャーを感じますが、まず今年度は実装に向けた取組というぐらいの形だ

と考えています。多分、課題の抽出にも頭を悩まされたと思いますが、それぞれの課題が具体的に何が課題なのかを細分化していくと、次年度以降の取組や、こういう課題だったら専門家をどこに入れるのかみたいな話だったりとか、ウォークアブルの場合は、学生さんはある程度得意だと思うんですけど、それが得意じゃない人たちも歩けるようにするための課題はなんだろうかみたいなところがちょっとずつ、今年度見えてくると、次にも繋がっていくと思います。

- ・ 一方で何かしら1個でも解決して欲しいという思いもあると思いますので、その辺りは何かしら実装に向けた提案を2月までにやっていきたいと思います。

(会長)

- ・ デザインラボはスマートシティと言いながら実体があり、一方、地区LINEはバーチャルで行いますので、双方で上手く成功例が出てくると、周南市のスマートシティが加速していくことになると思いますので、非常にシンプルな地域LINEと具体の場であるデザインラボの2つの両輪がこれまで協議会を重ねる中で出来上がりつつあるのかなと考えています。この大きな成果を、1つでも2つでも成功事例として積み上げていければと思います。

(会長)

- ・ 続いて、オブザーバーからは是非アドバイスいただきたいと思います。

(オブザーバー)

- ・ スマートシティデザインラボについてコメントします。この取組はいい取組と思いますが、課題も理解しているつもりです。県でもデジタル推進局ができてY-BASEという地域課題解決の拠点を作りました。これはDXについて何をしたらいいんだろうという方に対してコンサルティングを含めて御支援する拠点です。それと合わせて、デザインラボに近い形かと思いますが、シビックテックチャレンジYAMAGUCHIという官民連携の会員制組織で、自身のスキルを活かして課題解決をしたいと考えられているみなさんと課題をお持ちのみなさんを上手くマッチングしながら課題解決を進める取組も行っています。現在4年目となり、実装事例も出てきているところですが、立ち上がりの部分には悩みながらやってきました。実装に向けた取組をしたいと思いつつ、実装と実証の距離感があるので、そこを意識しつつ、意識しすぎず、今年度は学生を中心とした柔軟なアイデアを絡めながら進めていかれることはデザイン思考の考え方で進めるといい取組が出てくるのではないかと思います。今後是非意見交換をさせていただきながら進めていただければと思いますので引き続きよろしくお願いします。

(会長)

- ・ ここまで議論を続けてきて分かったのが、自動運転バスの走行もそうでしたが、重たい仕組みは難しいということですね。シビックテックなどのいろんな場づくりにしても、こういうものは地域に入っていくのに難しいところがあるので、できるだけ軽くてみんなが参加しやすいようなところを周南市でどう作るかというのが必要だと思うので、それに合う技術を民間企業からサポートしていただくような気持ちを持っていただくといいと思いました。

(オブザーバー)

- ・ 一般企業からの参加ということで、一番利用者目線に近いコメントができると思いつながりながら聞いていました。
- ・ まず、安心安全の分野取組の中で「防災 DX の推進」と「消防指令システムの更新」とありますように、一般の市民にも災害情報等を出していただくなどしており、警察や消防、市の職員の次に建設業者は災害時に動きますので常に最新版の情報が必要な状態が続いておりますので、これらの分野をもっと推進していくと非常に効率的であると思います。
- ・ 「預貯金等の電子照会」については、これは既に銀行でもしている業務なので、差別化や提携がどうなるのかが気になりました。
- ・ 「クラウド型電子契約サービスの導入」については、我々も市と公共工事の契約をする時に昨年から使い始めており、とてもわかりやすいし便利だという感想を持っています。収入印紙がかからないことは企業にとって節約になりますのでどんどん普及していくと思います。現在は市と事業者間の契約になりますが、今後事業者間や個人単位でも使えるような制度として広がっていくと思います。
- ・ 続いて、議題（２）の今年度取り扱うテーマの「旧市長公舎の有効活用」については、自分が行ったことがないが写真やホームページ等を見たことがあり、凄く雰囲気がいいと認識していますので良い使い方があると思います。それこそ、一般企業に使わせてもらったらいろんなアイデアが出ると思います。公的な財産ですが、例えばカフェや会議室など、ある程度柔軟な使い方を考えていただければいいと思います。
- ・ 「ウォーカブルで憩える徳山駅周辺」については、回天記念館に公衆 Wi-Fi を設置されたとありましたように、ウォーカブルで歩き回った時の休憩場所を作った時には必ず Wi-Fi を設置して欲しいと思います。立ち止まって休憩する場所に Wi-Fi があれば必ずそこ休憩に行きますのでこれが一般的になればいいと思います。
- ・ 「公園の利用促進」については、周南緑地の P F I 事業者として、当時の文化スポーツ課さんと協力してこの緑地公園に関してはアリーナやテニスコートでオンライン予約を活用していただいています。これは当時先駆けて市から提案された

ものでしたが、今後これが緑地公園以外のもっと他のところにも広がっていくといいと思います。

- ・子育て世代は実際に今日どこに出かけようかという場面があるので、市長公舎や駅周辺も含めていつどこで何をやっているかがわかるようなマッチングアプリがあれば非常に便利と思って聞いておりました。

(会長)

- ・利用者目線からの様々な意見を聞かせていただき非常に参考になりました。
- ・議題（１）は、全部網羅的に上がっておりますのでそれぞれをちゃんと推進していくことと、コミュニティ側の地区 LINE、そしてリアルな場で展開できるスマートシティデザインラボの活動が組み合わせるのが、どうやら周南市のスマートシティだということで形が決まってきたのかなと思います。
- ・ウォークブルについては御幸通と岐山通が周南市のシンボルストリートであり、これまで駅前の再開発や市役所の建て替えをやってきたので、ここをどのように市民の実感のこもった場所にしていくのかというところには是非デザインラボや地区 LINE も組み合わせながらまちづくりを進めていくことができれば、スマートシティ型の都市整備や実感のこもったまちづくりに繋がってくると思いますので御検討ください。
- ・声を上げられない人や、小さな問題だけどその地域や人にとってはとても大切なことが見過ごされがちだったところや、福祉の方々が手弁当でやってきていたところを、この DX や IT でどう支えられるのかを考えていく必要があります。例えば、会議やイベントで子供を預けるような場所が設けられているかなど、実際の声を持ち上げ、かつリアリティのある対策にしていくのかっていうところは、今後引き続き、このスマートシティ推進協議会の中で議論していけたらというふうに思った次第です。
- ・続いてその他連絡があれば、事務局からお願いします。

5. その他

(事務局)

(参考資料に基づき説明)

(会長)

- ・以上で、本日の議事を終了します。委員の皆様、議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。
- ・それでは、進行を事務局へ返します。

(事務局)

- ・ 本日は御多用のところ御出席いただきありがとうございました。また、各取組においては、皆様には多大な御協力をいただきまして誠にありがとうございます。今後も引き続き、御理解御協力のほどよろしくお願いいたします。
- ・ 次回、第14回の周南市スマートシティ推進協議会については、正式な日時が確定次第御連絡いたしますので、御出席のほどよろしくお願いいたします。
- ・ また、本日の議題にもございました、周南スマートシティデザインラボにつきましては、次回中間発表を予定しております。詳細は改めて御案内を差し上げます。

6. 閉会
(事務局)

- ・ 以上で第13回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上